

新館 B1F
多目的ホール
「朱砂」



日本画の魅力

1月～4月

明治時代に油彩画（洋画）が発展するなかで区別するために生まれた概念、日本画。技法や様式など中国に由来しながらも日本独自に深化・発展しますが、現代では材料に重点をおき日本画と定義されています。本展は、風景や植物にみる自然の美をテーマに、繊細な描写から、大胆で力強さを感じる表現など、日本画の魅力をお楽しみください。

出品作家：小山硬、郷倉和子、下田義寛、中島千波、村上裕二 ほか



下田義寛「昇陽」

水にまつわる表現

5月～8月

ことわざや四字熟語など水にまつわる言葉が多く存在するように、作家たちの個性によって描かれる水の表現も、変幻自在に動く水のように多種多様にあります。絵画のほかにも、前衛いけばな作家の中川幸夫は、花から抽出した花液と水を使って和紙に花の生命を描いた「花樂」という平面表現を確立しました。水にまつわる表現をテーマに、作家による様々な平面作品をご紹介します。

出品作家：石躍達哉、下田義寛、千住博、中川幸夫 ほか



石躍達哉「青海波」

篠田桃紅の世界

9月～12月

美術家 篠田桃紅は、幼少より書家であった父親の手ほどきを受け書に親しみ、墨の世界に魅せられていきました。戦後、既成の書の形にとられない墨による抽象表現へと移行し、1956年に単身渡米。ジャクソン・ポロックなど後の抽象表現主義の中心となる作家を多く輩出したギャラリーで作品を発表し、世界最先端の芸術の発信地であるニューヨークから、篠田桃紅の作品は多くの人々を魅了しました。墨の多彩で豊かな表情を生涯をかけて追究した篠田桃紅の世界をご堪能ください。



篠田桃紅「賛歌」

本館 1F
ミュージアム
ホール



黒田泰蔵と畠山耕治

1月～6月



黒田泰蔵「白磁梅瓶」



畠山耕治
青銅器「赤銅の風・赤銅の雲」

陶芸家 黒田泰蔵は、「ろくろ成形・うつわ・単色」を制作の条件と決めて、装飾性を削ぎ落とし、緊張感のあるフォルムと繊細なエッジが特徴的な無釉焼き締め白磁作品を確立しました。鑄物の歴史を持つ富山県高岡市に拠点を置く金属作家 畠山耕治は、薬品や温度によって、多面体の銅の箱型に多彩な錆の表情を引き出す技法で、金属のもっている奥深い美を浮かび上がらせた。

素材と深く対話し創り出した2人の作品は、究極的にシンプルで清々しく、そこには静謐な美が宿っています。2人の作家による磁土と金属作品の競演をお楽しみください。

わん 盃

7月～12月



鈴木藏「志野茶碗」



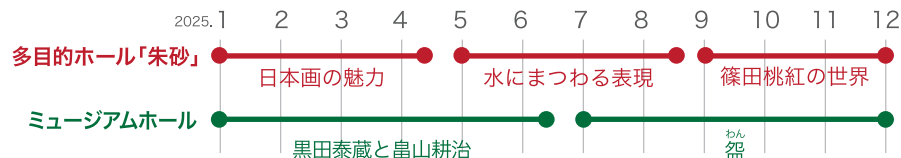
川端健太郎
「白磁辰砂白金錦彩綴化茶器」

両手のひらで包み込み、唇に直接触れて抹茶を飲むうつわ「茶碗」。古来より歴史をもつ茶の湯の道具である茶碗は、実際に使用して焼きものの魅力を身近に楽しむことができますが、作家独自の造形性や装飾性を追究した美術品として鑑賞できる存在でもあります。

小さな造形物に込めた、人間国宝作家を含めた現代作家たちの美と技の表現をご覧ください。

出品作家：伊藤慶二、板橋廣美、内田鋼一、小川待子、加藤委、加藤亮太郎、川端健太郎、鯉江良二、鈴木藏、新里明士、松永圭太、十二代三輪休雪、若尾経、鈴木治、山田光、川上力三、林秀行、八木明 ほか

※展示内容は変更する場合がございます。



開場時間：10:00～16:00

- 展示会場への入場は無料です。
- 定休日や貸切予約などでご覧いただけない場合がございます。事前にお問い合わせいただいてからのご来館をお勧めいたします。